

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

2023年 5月 10日

(宛先)
滋賀県知事

提出者

住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)
大阪市淀川区宮原1-1-1 新大阪阪急ビル3階

氏名(法人にあっては、名称および代表者の氏名)
株式会社GEHJAPAN 代表取締役 川口 誠

滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

第25条第3項 → 第25条第4項
第27条第1項 → 第27条第2項において準用する同条例
第26条第1項
第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

第25条第4項の規定に基づき、
[事業者行動計画を策定 (変更) 事業者行動報告書を作成] したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあっては、名称および代表者の氏名)	株式会社GEHJAPAN 代表取締役 川口 誠
事業者の住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)	大阪市淀川区宮原1-1-1 新大阪阪急ビル3階

1 事業者の概要

事業所の名称	株式会社GEHJAPAN GEONE開発研究センター					
事業所の所在地	滋賀県栗東市上鉤116-2 車整協ビル2階					
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	1	6	3	9	※ 産業分類・細分類名称を記載 その他の有機化学工業製品製造業
事業の概要	燃料活性剤の開発・研究					
従業員の数	5	人	作業時間	7	時間/日	
該当する事業者 の要件	<input type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロワット以上の事業所を県内に有する事業者					
	<input type="checkbox"/> 従業員数が21人以上であって、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者					
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意提出事業者					
主要な設備	ボイラ	台	熱源設備	台	照明設備	13 台
	コンプレッサ	台	空気調和設備	3 台	その他	

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始 年度	2	年度	報告対象年度	4	年度
	終了 年度	4	年度			

3 計画の(内容・実施状況)

計画の (内容・実施状況)	別添のとおり
------------------	--------

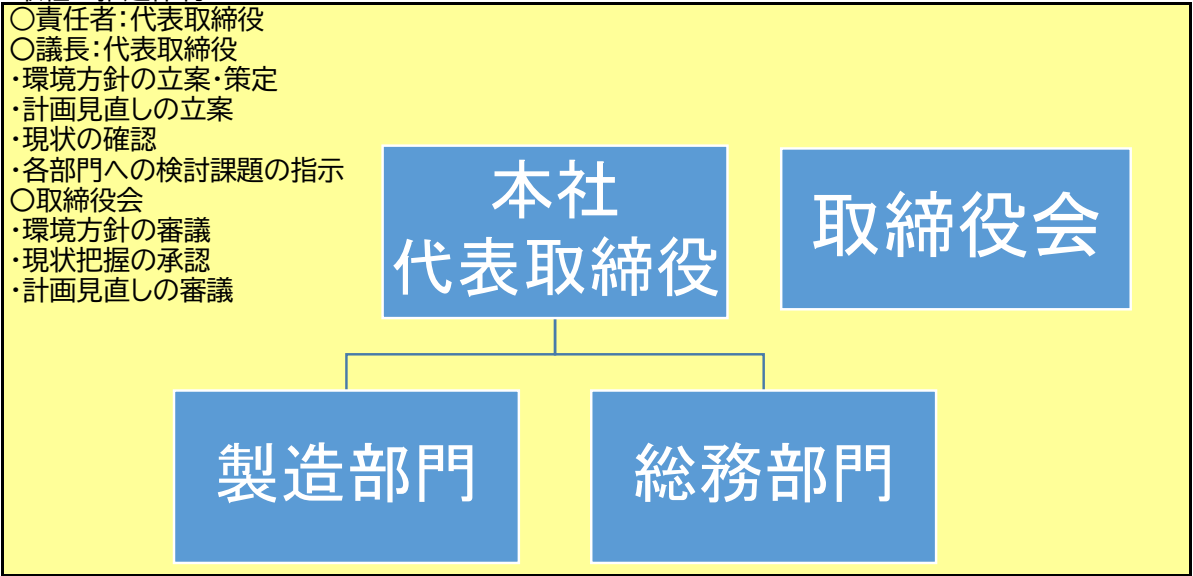
注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

1 CO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

私達、株式会社GEHJAPANは、プロダクトにより、環境問題を改善するとの企業理念のもと、SDGsの目標達成に向けた取り組みを積極的に行っております。基本的な方針として、2020年3月に「ジーイーワンエコSDGs宣言」を表明し、ケミカル会社としての事業活動を通じてSDGs達成に向けた取り組みを加速させ、地球温暖化を抑制する環境問題に特化し、CO₂を削減する製品を通して取り組んでいく事を目指しています。又滋賀県が提唱されている「二酸化炭素排出量実質ゼロ」の取り組みである「しがCO₂ネットゼロ」ムーブメントに賛同し、事業活動に取り組んでいます。

1. 私達の主力商品であるガソリン活性剤「GEONE」の普及を通じ、車両エンジンからのCO₂を削減し、公害ガスの無害物質化に取り組んでいきます。
2. 環境負荷を最小限にする仕事の仕組みを作り、環境の保全と汚染の予防に取り組めます。
 - ① 省エネルギー・省資源に取り組めます。
 - ② 廃棄物の削減と再資源化に取り組む「From ONE to ONE」リサイクルプロジェクト」を推進します。
3. 環境保全に関連する法規則を遵守します。
4. この方針を具体化し維持するとともに、全従業員に周知徹底します。
5. この方針を広く公開し、適切な情報提供に努めます。

2 取組の推進体制



3 これまでに取り組んできたCO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組

弊社では、車両用のガソリンエンジンやディーゼルエンジンに使用し、排気ガスの無害化及び燃費の向上を図るフュージョンオイルの研究開発を行ってきました。その成果により、商品名「GEONE」として平成31年4月に上市するに至り、主に(物流業界のトラック)に採用され、燃費消費由来の二酸化炭素排出量の削減に貢献しています。令和3年における販売量から算出した貢献量の規模は、7,754(t-CO₂)の削減に繋がると考えられます。又引き続き本商品の改良を継続しています。

算定の考え方

- ・本商品による直接的な効果：燃費5km/L→6km/Lに向上(ディーゼルエンジン/軽油)
- ・燃料タンク容量：200L
- ・本製品の使用頻度：満タン3回に1回あたり、200mlを配合
- ・本製品の販売量：(令和3年度)3,000L(200ml×15,000本)
- ・本製品(200ml)1回使用時の燃料削減量：1,200 - (1,200×5/6) = 200L
- ・全体の燃料削減量：200L×15,000 = 3,000KL
- ・CO₂排出量 = 燃料使用量(KL)×単位発熱量(GJ/KL)×排出係数(t-C/GJ)×(44/12)
 (t-CO₂/t-C) = 3,000×37,7×0,0187×(44/12) = 7,754(t-CO₂)

(第2面)

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	設備導入	省エネタイプの照明への更新	令和2年～令和4年度	令和2年～令和4年度
2	運用改善	不要時の消灯の徹底	令和2年～令和4年度	令和2年～令和4年度
3	運用改善	エアコン使用時の設定温度管理の徹底 (夏28℃・冬20℃)とフィルターの定期的な清掃	令和2年～令和4年度	令和2年～令和4年度
4				
5				

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1				
2				
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価
<p>上記の取り組みにより、電気使用量を減らし、二酸化炭素排出量の削減を目指します。 なお、当事業所は、現在他社施設を借用して運営しており、自社消費分の電気使用量を個別に把握出来ない為、設備更新による電気使用量の削減を尺度として設定しました。</p>	<p>目標に対して社員全員での取り組みを継続して行っています。 引き続き継続して執り行っています。</p>

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

	単位	計画開始年度前年度の実績	実績報告				
			(2)年度	(3)年度	(4)年度	()年度	()年度
原油換算エネルギー使用量	kL	0,619	0,619	0,877	0,567		
温室効果ガス総排出量	t-CO ₂	0,794	0,794	1,641	1,047		
エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	0,794	0,794	1,641	1,047		
非エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	0	0	0	0		
CH ₄	t-CO ₂						
N ₂ O	t-CO ₂						
HFCs	t-CO ₂						
PFCs	t-CO ₂						
SF ₆	t-CO ₂						
NF ₃	t-CO ₂						
エネルギー等原単位の推移							

備考「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

(第3面)

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1			
2			
3			
4			
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	
2	
3	
4	
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	kW	水力・小水力	kW	地熱	kW
太陽熱	kW	バイオマス	kW	その他 ()	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績					

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

		計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			()年度	()年度	()年度	()年度	()年度
再エネ電気設備での発電量	kWh						
上記のうち自家消費量	kWh						

(第4面)

6 事業活動を通じた他者の温室効果ガスの排出削減によりCO₂ネットゼロ社会づくりに貢献する取組

(1) 取組の内容およびその実績

取組の内容等	取組の実施状況
燃料活性剤「GEONE」の普及を通じ、車両エンジンからのCO ₂ を削減し、公害ガスの無害物質化に取り組んでいきます。エンジンは燃料を燃焼させて動力に変えています。そこで動力エネルギーをいかに効率(環境的)よく燃焼させるか、又高温化された排気ガスによる排気損失で、脱炭素、燃費向上等々を考えた時に、いかに損失を減らす事が重要かになります。エンジン排出口より未燃焼分の燃料が排出され、排出損失となっています。その一因として、燃料である炭化水素が分子集合体を作っていて元々は燃えにくい状態になっている事にあります。そこで、燃料そのものに働きかける燃料活性剤「GEONE」を添加する事により、この分子集団の活性化、細分化され酸素との反応が増える事で燃焼が促進され、完全燃焼状態を施す事により燃え残りメカニズムが減少し、結果として損失が減りアクセルレスポンス向上により加速感、パワー向上と燃費の向上と共に有害物質の削減効果を示します。滋賀県内に開発拠点を設け2022年1月に特許(第7002716号)を取得、脱炭素カーボンニュートラル宣言を掲げ、低炭素社会づくりに邁進しております。	成分構成と共に増量(200ml)、新デザインアルミボトルに改新し、更なるCO ₂ 、有害物質の削減に取り組み強化継続中です。
	CO ₂ 削減貢献量

(2) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

目標および目標設定の考え方
☆目標:「GEONE」の生産、販売を通じ令和3年度を基準年度として、以降毎年の二酸化炭素排出量の10%以上の削減を目指します。 ☆考え方:貢献量は「GEONE」が使用されなかった場合に使用されたであろう燃料(軽油)に起因する二酸化炭素排出量と比較する事とした。 ・二酸化炭素排出量の計算においては、以下の前提のもとに行った。 ・本製品による燃費の向上効果:5km/L→6km/Lに向上(ディーゼルエンジン/軽油) ・燃料タンク容量:200L ・本製品の使用頻度:満タン3回に1回あたり200mlを配合 ・CO ₂ 排出量=「GEONE」使用により削減された燃料使用量(KL)×単位発熱量(GJ/KL)×排出係数(t-C/GJ)×(44/12)(t-CO ₂ /t-C) <経済産業省・国土交通省 物流分野のCO ₂ 排出量に関する算定方法ガイドライン「燃料法」を参照>

(3) 上記の取組にかかる目標の進捗に対する自己評価およびCO₂削減貢献量の算出根拠

目標の進捗に対する自己評価
☆令和4年度の二酸化炭素排出削減量の計算 ・本製品の販売量(令和4年度)6,000L(200ml×30,000本) ・本製品(200ml)1回使用時の燃料削減量1,200-(1,200×5/6)=200L ・全体の燃料削減量200L×30,000=6,000KL ・CO ₂ 排出量=燃料使用量(KL)×単位発熱量(GJ/KL)×排出係数(t-C/GJ)×(44/12)(t-CO ₂ /t-C)=6,000×37.7×0.0187×(44/12)=15,509(t-CO ₂)



7 その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに資する取組

(1) 調整後排出係数に基づく温室効果ガス排出量の推移

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			()年度	()年度	()年度	()年度	()年度
温室効果ガス 排出量の推移	t-CO ₂						
エネルギー起源CO ₂ 【調整後排出係数】	t-CO ₂						
【調整後排出係数】	kg- CO ₂ /kWh						
特記事項							

(2) クレジット等購入

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			()年度	()年度	()年度	()年度	()年度
グリーン証書の購 入	t-CO ₂						
クレジットの購入	t-CO ₂						
特記事項							

(3) 通勤や出張など人の移動および物流における脱炭素化の取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケ ジュール	
1				
2				
3				

(4) 業務で使用する車輛の脱炭素化の取組

	項目	単位	計画開始年度 前年度の 保有台数	実績報告				
				()年度	()年度	()年度	()年度	()年度
	保有車輛の数	台						
	上記のうち 次世代自動車の数	台						
特記事項								

(5) その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに向けた取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組内容	実施 スケジュール	
1	3R	産業廃棄物の削減	令和2年度～ 令和4年度	令和2年度～ 令和4年度
2	その他	従業員の環境意識向上によるCO ₂ 発生抑制 (節電・小改善活動)	令和2年度～ 令和4年度	令和2年度～ 令和4年度
3				
4				
5				